


クラス	105	担当教員	まる やま まさる 丸 山 優
	テーマ	福祉社会の経済学	
	著書・論文 研究課題等	①厚生経済学（経済政策・社会政策の基準を明らかにする） ②ニュービジネス創出の実態調査（特にサービス産業〔政府部門を除く第三次産業〕のイノベーションに関する調査） ③「世界大不況」の比較史分析	

## ゼミナール概要

キーワード：福祉、福祉社会、格差社会、少子化、雇用機会（就職先）、サービス産業のイノベーション

### ① 目的、内容

本ゼミは、次の4テーマに順次取り組み、自分や家族の幸福とは何かと思い巡らせながら幸福の増進を阻害する諸要因を調べ、それらを打破して日本に**福祉社会**を建設していく道筋を明らかにしたい。

1. 人口高齢化と「**格差社会**」化との関連（**格差社会**の何が問題か？）
2. 高齢社会の日本に暗雲を投げかける**少子化**（何が原因か？ 解決策は？）。
3. **雇用機会（就職先）**と社会保障（年金・医療・介護など）との関連
4. （社会サービスを含む）**サービス産業のイノベーション**をめぐる実態調査

「福祉」は古今東西で、幸福とか順調な生活とかを意味する。生きる意味は自分や家族の、さらには社会全体の**福祉**の増進にある。だが、きみたちはこの言葉で「困難を抱えた人を援助する仕事（サービス）」しか連想しないのではないか。たしかに、そうした仕事を無視しては自分の幸福すら成り立たない。しかし、**福祉**をそのように限定するのは、あまりに一面的で狭すぎる。「福祉の仕事」以外に**雇用機会（就職先）**を見出すことも、立派な**福祉**増進への道である。自分や家族の福祉を優先させる考え方で一向に構わない。視野をもっと広げて、経済学の考え方を生かして、自分や家族の福祉、さらには社会全体の**福祉**を増進する方策、要するに**福祉社会**建設の道筋を、日本社会に即して考えてみよう。

### ② 履修上の注意

次の3タイプのどれかに属すると思う学生に、本ゼミを選択してほしい。

1. 「福祉の仕事」よりもむしろ「福祉の仕事」の発展を支える別の仕事（例えば金融機関、専門商社、メーカーなどでの仕事）に就きたいと考えている人。
2. 自分のアイディアで旧態依然たるサービス産業の刷新を図りたいと考えている人。
3. 人間の生きざま、したがって歴史や社会学などに興味があり、そうした興味を何とか経済学の知見と結びつけることができないものかと考えている人。

### ③ 授業計画（スケジュール）：

前期——テキストを通読し、文献調査を進めて、テーマに関する理解を深める

夏休み——ゼミ合宿、あるいは現地調査

後期——調査報告の作成・発表を予定し、文献調査や討論を深める

使用テキスト	担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 橋木俊詔『格差社会 何が問題なのか』岩波新書、2006.</li> <li>・ 小峰隆夫+連合総合生活開発研究所・編『人口減・少子化社会の未来——雇用と生活の質を高める』明石書店、2007.</li> </ul>	<p>週に1度出席し、たまに報告を引き受ければ単位が得られるのがゼミならば、実はつまらないでしょう？ 還暦を過ぎたとはいえ付き合いは良いほうですから、是非とも多彩な活動を展開し、後年に振り返って「ゼミが成長の場だった」といえるようにしましょう。</p>